

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成25年9月14日	評価結果市町村受理日	平成26年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170200535-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域特性を活かし、近隣の方々とのふれあいが多い。
交流センターという、地域住民が中心となって作られている場に入居者様と入ること、入居者様の顔、名前、職員の顔、名前を覚えていただけている。
玄関まで出て行かれたときにも、交流センターを利用されている地域の方が声をかけてくださることで、戸外での事故もなく、穏やかに過ごしていただけている。
カラオケ大会への参加、行事ごとでの地域の方の招待なども充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりに、担当職員を決め、利用者の心身の状況や思いの把握に努めている。利用者の高齢化・重度化による機能低下はあるが、「その人らしく暮らす」ことが出来る様にミーティングなどで協議し支援に努めている。自宅での生活の延長線上に事業所での生活があるようにとの思いから、起床時間や食事の時間、日中の過ごし方などは、利用者の思いに添うようにしている。全職員が、自己評価や外部評価の意義を共有し、いかに利用者に満足してもらえるか、工夫、改善に向け努力している。交流センターでは、喫茶、カラオケなどを通じて地域の住民と交流があり、利用者とも顔なじみになり、屋外に出た時に声をかけてもらえるなど安心して過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲示して認識を促している。理念を職員全員が共有(認識)していると思われるが、必ずしも実践に反映されていない部分を否定できない。常に理念を念頭において実践できるよう、意識化を図っていきたい。	全職員出席のミーティングで話し合いながら、ケアを振り返り、理念に沿った、利用者一人ひとりの家庭的な日々の暮らしが継続出来る支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の一部を交流センターとして地域の方々に使用して頂き、日常的に交流をしている。	交流センターの喫茶店は、地域の人たちの集いの場になっている。カラオケ・お花教室に利用者も参加して、日常的な交流がある。事業所行事には地域の参加もあり、子供110番の家として、子供たちの安全にも関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回ほどの行事に地域の方にも参加いただき、入居者様とのコミュニケーションをとっていく中で、自然に認知症の人についての理解をしていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに取り組み等を伝えながら、認知症の人を支援するという事業所への理解を促すとともに、市の当局者・民生委員・家族らと情報交換している。家族の参加を拡げたい点、より多くの地域住民・関連機関の参加に拡げたい点が課題である。	多くの方の参加を得るため、参加者の都合に合わせて日程や時間の調整をし、運営推進会議を開催している。運営推進会議を通じて警察署や民生委員と連携を取り事業所行事の地域内掲示や防犯、安全に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、ケアマネが窓口となり、日常的な事業所としての報告、運営推進会議を通しての報告等、綿密に連絡を取り合っている。市町村担当者も協力的であり、よい関係作りができています。	管理者は、利用者の諸事情や後見制度、自立支援事業に関して相談や報告をしている。市の計画で市職員の「ひとりボランティア」の計画があり、事業所でのボランティア受け入れの打診も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを整備しね職場内でのミーティング等で何を以って「身体拘束」というかを含めた身体拘束の廃止について周知・徹底を図っている。施錠は、夜間のみ行っている。	管理者や職員は拘束の弊害を理解し、昼間は玄関を開錠し、ベッド柵も使用しない支援に取り組んでいる。「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にし定期的にミーティングで話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がほしいところである。〈意識されない虐待・権利侵害〉(尊厳を傷つけるような言葉遣い等を含む)の存在を否定できない。尊厳の保持、〈本人本位〉の支援ということを常に意識した関わりを徹底できるよう、ミーティング等で訴えていきたい。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて入居者様が利用している自立支援事業や成年後見制度について話があり、徐々にではあるが、職員全体として理解してきている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を読み上げ説明するだけでなく、わかりにくかった点、不安な点を尋ね、家族の理解を得た上で署名・押印、契約につなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時はもちろん、運営推進会議を通じて意見・要望などを伺い、利用者様の生活や事業所運営に反映させている	入居時に、無記名式のアンケート用紙を幾枚も家族に渡して、何時でも意見や要望を出してもらえる様にしている。電話連絡の折も支援方法に対して意見や希望を聞いている。個別の意見、要望にはその都度対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時に今、現場で困っていることや、必要な物の購入など、意見を反映していると思う。	ミーティングでモニタリングの結果や担当職員の気づきを検討・協議している。重度化に伴い介護職員の変更やシフトの組み換え、褥瘡マットを購入するなど意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、必要に応じて現場に顔を出したり、勤務に入ったりして、職員の姿を見ており、向上心をもって働けるよう励ましている。また、希望休、休み時間もとれるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回は自分の力量に見合った研修を受けるよう積極的に勧められている また、個人的にも資格取得のための勉強もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者同士のみで、職員同士の交流は法人内しかないので、今後、職員同士での他法人、他事業所との交流もしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、管理者・ケアマネが本人様との面談でその点をお聞きし、それを職員全員に伝え、また職員一人一人もその方に接していく中で慌てずゆっくりと信頼関係を築いていけるよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時に、管理者・ケアマネがきちんとお話を伺い、本人様同様、家族の方の要望も細部まで聞き取り、御家族が安心されて入所を続ける関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの新しい生活がスムーズに送れるよう、本人と家族等がまず必要としている支援を見極めて、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずはどの方に対してもその方ができることは何か考え、職員がすべてやってしまうよう見極めていかないととは思って取り組んでいる。調理、洗濯物など家事のお願いをすることもありますが特定の人になってしまっているのが現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された時や電話時に、本人の生活状況を伝え、家族の意向を伺い、双方の意向を考慮して支援に反映させている。また、絆を大切にすべく、ともに過ごしていただく時間を作って頂くようお願いしているが、ほとんどホームに来訪されない家族もおられ、共に本人を支えている関係は厳しい現状です		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この支援に関しては全くできていません なじみの人が来訪されることは家族以外全くいらいらず、場所にもなかなかお連れできません。私自身、これからこの点を一番に考えて取り組みたいと考え始めています	利用者の高齢化や重度化により、外出時間や支援方法が困難な利用者や家族の訪問も無く、連絡方法は郵送で行なう利用者もいる。手紙や賀状の代筆をしたり、電話を取り次ぎ等継続の支援の努力はしているが、十分な関係継続に至っていない。	写真や会話の中から、楽しかった思い出や記憶を拾い出し、できる事は何かを職員間や家族と話し合い、できそうな事から繋がりを継続できる支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気の合う人、合わない人それぞれのため、なるべく口論にならないように努めているが、支え合うより、口論が頻繁に起きてしまう関係です		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にして、できる限り、本人・家族への支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望には応えられていないと思います 出かけたい、外食したいと言われても全くできていません	担当職員を決めて利用者と一対一で向き合い、じっくり話を聞き把握に努めている。利用者の外食希望に応え、利用者と担当職員が外食に出かけている。担当職員だけでは外出できない利用者には、職員二人で出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」シートへ家族に書いて頂き、これまでの生活歴や暮らし方、生活環境、サービスの利用状況等の把握に努め、あくまで本人本位の支援につなげるようにしているが、ほしい情報が無い場合があるので、更にアセスメントする必要があると感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	だいたいの一日の流れは把握できていますつもりですが、あまりに単調なため、有する力等をもう一度考え見直す必要があると思います		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	郵送で家族に意見を伺い、介護計画を作成し、日々の実践のなかで必要に応じて、また3ヶ月ごとに、家族・担当者から意見を募ったうえで、現状に見合う介護計画に変更している。	職員全員参加のミーティングでモニタリングの結果や利用者・家族の意見及び医師の所見を取り入れ介護計画を作成している。退院時等の状況変化時には、随時見直し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実と気づきを分けて書くようになっていて、各入居者の介護記録にその都度記入して、情報の共有を図り、実践に活かしているが、記録量(情報量)が少ない。事実と主観や解釈を区別して記録することができればなお良いと考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスはできていないように思います すぐにならぬまま今のサービスで対応しているように思います		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容・理容・往診(歯医者・医者)等地域資源を把握し、協同しています これからはもっと暮らしを楽しむことができる地域資源を知り、活用できればと思います		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が病院受診に連れて行けない時は事業所で対応し、受診後の報告をしている。	かかりつけ医を継続する事を基本としている。利用者や家族の都合で変更することもある。受診結果は家族より連絡があり、通院記録として保管、全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面について、僅かな状態の変化も見逃さない意識をもって、入居者と接し、日常およびミーティングの場で看護師と対応を協議している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に足を運び、本人や家族からの情報を得たりし、その時々の様子などを職場で得ることができる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に対応できることとできないことを説明しているが、重度化が現実となったときに、再度顔と話し合い、契約にはないが、できるだけことはさせていただくよう努め、家族も含めたチームケアを実践している	契約時に重度化や終末期の対応の説明をしている。常時医療を必要とし、医師の判断が出るまでの間、出来る限りの支援を行い、家族の訪問を多くしたり、面会時間を延長したりしながら、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、講習会を開いていただいている。全職員が参加をしているので、実践力を身に付けていると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署・地域の方の協力のもと、避難訓練を実施している。夜間を想定したものも実施できるとよい。緊急連絡網を整備し、定期的に伝達訓練を実施している。	地域の協力を得て定期的に避難訓練や伝達訓練を行っている。利用者の機能低下に伴う誘導方法の指導も受けている。しかし、夜間を想定した避難訓練と食料備蓄想定の訓練及び食料備蓄がない。	集中豪雨や、地震・入院施設の火災等の報道が多く、万が一の備えとして夜間を想定した避難訓練と食料備蓄を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する敬意を表す言葉遣いに少し欠けている気がする。あわてる時など、気がぬけるため、地元の荒い言葉遣いになってしまい、上司からよく注意をされる。	本人の自尊心を傷つけないように、紙に書いたり、耳元で声掛けをしてトイレ誘導している。居室のおむつ類は外から見えないように配慮している。利用者に対する対応で気づいた事は、上司、職員間でその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望より先に職員が決めてしまっている部分もあると思います		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物、散歩、入浴などはこちらの都合を優先しているため見直し、支援をしていく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服がある場合はそれを着ていただき、季節に応じた服装でいられることを配慮していますが、常時ではないため、常時、ご本人好みのおしゃれができるよう支援していきたいです		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けする場面は減ってきている現状です ただ、今一度、一人一人の力量を把握し、一緒にできることはどんどんやっていきたいと思っています	利用者と職員は、会話をしながら食卓を囲んでいる。地域の方から季節の野菜を頂き、説明を受けながら旬を味わっている。朝遅く起きる利用者は本人の希望時間に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない献立作りに努める。水分補給に気をつけ、食事摂取量をつけ、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけ、口腔ケアをしていただいています 洗剤が入ったケースに入れ洗浄します		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンをつかみ、時機を見計らって排泄を勧めている。そして、必要に応じた介助を行っている。 安易なおむつの使用は自立を阻害するとの認識を職員は共有できていると思われる。	利用者の排泄パターンやサインを把握して、トイレ誘導をしている。夜間も安易にオムツにせず、トイレでの排泄を継続できるよう自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い飲み物の提供をした事があつたが、現在は薬に頼っている為、食事や運動等に取り組んでいけるよう努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴時間や入る順番も決めてしまっているので個々に添った支援ができていません	週に3~4回入浴をしている。利用者の生活習慣では、殆どの利用者が夜間に入浴していたが、事業所側で午前、午後に時間を決め、公平になるように入る順番を決め入浴をしている。	会話や回想の中から希望を拾い出し、温泉気分を味わうなど、工夫しながら、入浴を楽しむことができるよう期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンがあるため、必要に応じて温度調節を行い、気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人何の薬を飲まれているか把握できていません 一人一人の持病をしっかりと把握し、いつも理解できている状態であるように努めていきたいです		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に家事を役割として数人の方に行っている。楽しみごとの支援は、集団でのものはあつても、ひとりひとりのものはあまりできていない。〈個別支援〉にこだわりたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の都合で職員の人数が足りないという理由等でできていないのが現状です 少し涼しくなってきたら外出を積極的に支援していきたいです	職員は外出援助をしたい気持ちはあるが、外出頻度は少ない。山芋やいのしし・鰻などの好みの郷土料理と担当職員との会話の弾む食事は、利用者にとって大きな喜びであつた事を実感し、11月に外出する予定である。	外出は、利用者の気分転換やストレス解消になる。気候に合わせて庭先に出て外気に触れたり、日常的な散歩も外出支援と受け止め、今後の支援に期待したい。

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	今現在は、職員の都合により全くお金の自由な所持はできていません 今後は入居者様のためにお金の所持について改善していかなければならないと思います		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に出している 本人様を書けない場合は代筆で出している 家に電話をしたいと言われたらかけてさしあげている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やはり夏には暑い空間(特にトイレ)冬には寒い空間(やはり特にトイレ)があり、不快になるところがあります 今には季節を感じられる華やか飾りをし、癒やされる空間になるよう努めています	玄関には自然木の表札が有り、落ち着いた雰囲気を出している。大きなカレンダーは今日は何日か分かるように丸印で囲み分りやすくしている。利用者は陽射しが入るリビングのソファにゆったり座り、好みの飲み物を飲みながら、テレビを観たり会話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所でくつろがれていることが多く、また、思い思いにおしゃべりすることができているが、座る場所により居心地が悪いときがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れたもの、好きなもの等を部屋に配置したり、飾ったりしていたくようにしている。	使い慣れた家具や調度品、枕、布団を持ち込み、年賀状、家族や孫の結婚式の写真を飾っている。好みの洋服がハンガーに掛けてあったり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはネームプレートをつけ、廊下には安全に歩行ができるように手すりをつけて、トイレや居室、浴室にはナースコールをつけてすぐ助けを呼べるようにしている。		